

# 体育科学習指導案

## 単元名「ソフトバレーボール」

令和7年11月 第5学年 指導者 越塚 光

### I 単元の構想

#### 1 単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説（平成29年告示）体育編「第5学年及び第6学年の内容 E ボール運動 イ ネット型」を受けて設定した。

ソフトバレーボールは練習やゲームを通して、「協力してボールをつなぐ楽しさ」や「簡易化または工夫されたルールの中で誰もがゲームに関われることに楽しさや喜びを味わうこと」ができる運動である。

一方で、自分のミスが相手の得点につながってしまうことやボールへの恐怖心から、苦手意識をもってしまっても少なくない。

そこで、本単元では、やわらかい材質のボールを使った「キャッチバレーボール」をメインゲームとして展開することとした。運動が苦手な児童も、ボール操作が容易になることにより、ラリーの楽しさや、仲間と協力する喜びを味わうことができると考える。また、攻防の工夫について作戦を立てたり、仲間を応援したりすることにより、技能の向上だけでなく、他者と関わり合う楽しさや喜びを味わうことができるようにしたい。

#### 2 研究との関わり

本研究主題は、「運動への多様な関わり方を理解し、できる喜びや友達と運動する楽しさを味わえる児童の育成—『する・みる・支える・知る』の運動の視点を通して—」である。

児童はこれまで、個々の学習課題をチームの仲間に伝え、共有することで、自己や他者の課題に気付き、それを踏まえてチームの作戦を立てたり、自己課題の解決方法を考えたりする学習を行ってきた。その結果、自分だけで課題を解決するのではなく、仲間と一緒に考えることのよさを実感する児童が増え、仲間を積極的に応援する姿や、チーム競技としての楽しさを味わう様子が見られるようになってきている。

一方で、運動経験や技能の差が大きく、積極的に運動に取り組む児童とそうでない児童との二極化も見られる。運動技能への自信がもてない児童は、運動そのものへの意欲が低下しやすい傾向がある。そこで本単元「ソフトバレーボール」では、運動への多様な関わり方である「する・みる・支える・知る」の視点を重視し、児童同士の積極的な対話を通して学びを深めることをねらいとする。

「する」活動では、実際に動いてみて感じたことや気付いたことをアドバイスや作戦に生かすことを重視する。「みる」活動では、仲間のプレーを観察し、よい点や工夫点を伝えることを通して互いの学びを深める。「支える」活動では、得点や審判、応援や用具の準備などを通してチームに貢献する姿勢を育てる。「知る」活動では、ルールや動き方を理解し、よりよい練習方法や作戦づくりに活かすことを目指す。

また、これらの活動においては、ICTを活用して個人の振り返りや他者の気付き・考えを視覚化することにより、学びの共有を促進する。「する・みる・支える・知る」の視点を意識して振り返り、言語化した内容を共有することで、友達の頑張りを称え合い、「支える」活動の充実にもつなげていく。

以上のことから、児童同士のコミュニケーションを充実させ、誰もが楽しく運動に関わることでできる学習環境をつくることで、仲間と協力することの楽しさや喜びを味わうことができるようにする。

#### 3 単元（題材）の目標及び児童（生徒）の実態

	目 標	児童（生徒）の実態
知識及び技能	・ソフトバレーボールの楽しさや喜びを味わい、その行い方を理解するとともに、その技能を身に付け、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームをすることができるようにする。	・4年次にソフトバレーボールを基にした易しい運動を学習しており、基本的なボール操作を経験している。 ・キャッチやレシーブなどの技能面は個人差が大きく、ボールを落とさず、つなぐことは難しい。

思考力、判断力、表現力等	・ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。	・自己やチームの課題に応じた練習方法を選ぶ楽しさは感じているが、自己の考えを他者に伝えることに対しては教師の支援が必要な場面がある。
学びに向かう力、人間性等	・運動に積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動をしたり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取り組みを認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。	・互いのよさに気づき、友達に励ましの声をかけたり、アドバイスをしたりする児童が少しずつ見られるようになってきた。

#### 4 評価規準

知識・技能	①運動の行い方やゲームのルールを理解し、運動への自己の関わりについて言ったり書いたりしている。 ②ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動することができる。 ③味方が受けやすいように、キャッチやパスでボールをつなぐことができる。
思考・判断・表現	①運動への関わりの視点から考えたことを、自己や仲間に伝えている。 ②自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいる。
主体的に学習に取り組む態度	①運動に積極的に取り組もうとし、ルールを守って運動をしようとしている。 ②仲間の考えや取組、関わり方を認めようとしている ③場や用具の安全に気を配っている。

#### 5 指導及び評価の計画（全6時間：本時第5時）

過程	時間	□学習活動	知	思	態	◆評価項目<方法（観点）>
つかむ	1	<p>[単元・題材の学習課題・問い等] 様々な関わりを通して、ソフトバレーボールを楽しもう。</p> <p>□オリエンテーション ・バレーボールについて知るために、動画視聴（つなぐ、フォロー、仲間との関わりや応援している姿がわかる内容）、学習の進め方、安全に関すること、準備片付けの方法を知る。 ・ソフトバレーボールの扱いに慣れる活動を行う。</p> <p>□スキルアップタイム（ドリル活動） ○チーム活動 ・ボールハンドリング ・キャッチボール（おでこタッチ、ソフトクリームキャッチ、ワンバウンドキャッチ、バウンドジャンプ） ・スパイク練習</p> <p>[本時のめあて・課題等] ソフトバレーボールの行い方を知り、学習の見通しをもとう。</p>			③	◆場や用具の安全に気を配っている。  <観察（態③）>

追究する	2	<input type="checkbox"/> キャッチソフトバレーボールを基にした易しいゲームを通して、ゲームの流れを知る。(児童に実際に動いてもらい、流れを見本で見せる) ・ゲームにおける「する・みる・支える・知る」の関わりを理解する。 ・ICTワークシートに振り返りを記入する。	①	③	◆場や用具の安全に気を配っている。 <観察(態③)> ◆運動の行い方やゲームのルールを理解し、運動への自己の関わりについて言ったり書いたりしている。 <観察(知①)>
	[本時のめあて・課題等] やさしいルールで、ソフトバレーボールのゲームの流れをつかもう。				
	3	◇前回の振り返りを共有する。 <input type="checkbox"/> キャッチソフトバレーボールを基にした易しいゲームをする。 ・攻撃(アタック)をするために必要なことをチームで相談し、練習する。 ・チームの作戦タイムの活動のしかたを知る。	③	①	◆味方が受けやすいように、キャッチやパスなどでボールをつなぐことができる。 <観察(技③)> ◆運動への関わりの視点から考えたことを、自己や仲間に伝えている。 <観察(思①)>
[本時のめあて・課題等] どうすれば攻撃(アタック)につなげられるかチームで考えよう。					
4	◇前回の振り返りを共有する。 <input type="checkbox"/> キャッチソフトバレーボールを基にした易しいゲームをする。 ・失点を防ぐために必要なことをチームで話し合い、練習する。 ・失点を防ぐためのポジションを考える。	②	①	◆ボール方向に体を向けて、その方向に素早く移動することができる。 <観察(技②)> ◆運動への関わりの視点から考えたことを、自己や仲間に伝えている。 <観察(思①)>	
[本時のめあて・課題等] どのような守備をすれば失点を防げるかチームで考えよう。					

5 本時	<p>□キャッチソフトバレーボールのゲームを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ルール工夫と確認</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○バドミントンコート</li> <li>○3対3ゲーム</li> <li>○キャッチ→キャッチ→スパイクの3段攻撃 (ワンバウンドを選択してもよい)</li> <li>○サーブは相手が確実にとれる場所に下から投げ入れる</li> <li>○3タッチで返す(1人1回)</li> <li>○サーブ権は各ラリーで切り替わる</li> <li>○自分のチームにサーブ権がきたらローテーションする。(背番号で)</li> <li>○ラリーを続けるためブロックなし</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームの作戦タイムで交流をする。(攻撃・守備について、見ていて気がついたこと)</li> <li>・各々がゲームにおける「する・みる・支える・知る」を意識して関わる。</li> <li>・ICTワークシートに振り返りを記入する。</li> </ul>				<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいる。 ＜観察(思②)＞</li> </ul> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆仲間の考えや取組、関わり方を認めようとしている。 ＜観察(態②)＞</li> </ul>
<p>[本時のめあて・課題等]</p> <p>自分にできる関わり方を見つけて、ゲームの楽しさを味わおう。</p>					
まとめ	<p>6</p> <p>□キャッチバレーボール大会をしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習してきたことを活かして攻防を展開する。</li> <li>・総当たり戦を行う。</li> </ul>				<p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆運動に積極的に取り組もうとし、ルールを守って運動をしようとしている。 ＜観察(態①)＞</li> </ul>
<p>[本時のめあて・課題等]</p> <p>チームで協力し、ソフトバレーボール大会を楽しもう。</p>					

## II 第5時の学習

1 **ねらい** いろいろな立場（する・みる・支える・知る）で運動に関わってきた経験を基に、自分やチームに合った作戦を見つけ、ゲームに活かすことができる。

### 2 展開

<p>主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕</p>	<p>◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）</p>
<p>1 用具準備・準備運動（導入①5分）</p> <p>2 ドリル活動（導入②5分） ○スキルアップタイム（ペアキャッチボール、スパイク） ※ボールの落下地点に素早く移動することを意識する。</p> <p>3 前時までの学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。（導入③5分） S：攻撃や守備のしかたをチームで考えることができた。 S：アタックが打ちやすいところでボールを受けることが大事だね。 S：チームで声をかけ合えるといいね。</p> <div data-bbox="165 1070 798 1209" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>&lt;めあて・課題等&gt; 自分にできる関わり方を見つけて、ゲームの楽しさを味わおう。</p> </div> <p>4 チームで作戦タイム（導入④5分） ○ゲームの攻撃や守備の隊形やプレーのしかたを共有する。 S：最初は得点係をやるね。 S：ボールが怖いから捕ることが苦手だな。 S：捕ることが得意だから最初に捕るよ。 S：味方が捕りやすいボールを投げよう。</p>	<p>○安全に留意して運動ができるように声がけを行う。</p> <p>○チームごとに声を掛け合いながら安全に留意して用具の準備や体操ができるように伝える。</p> <p>○スキルアップタイムでは、ボールの正面に入ってからキャッチをしたり、味方が取りやすいボールを送球したり、アタックしやすいボールを送球したりできるように声をかける。</p> <p>○前時までの活動を振り返り、児童が本時の見通しがもてるように、授業のめあてや流れを確認する。その際、めあては児童の言葉から引き出せるような発問をする。</p> <p>◎「する・みる・支える・知る」のそれぞれの視点を意識した対話活動 ○作戦タイムの中で、運動において「する・みる・支える・知る」の関わりがあることを意識して、気付いたことを話し合えるように「話し合いカード」を用意する。 ○作戦ボードを用意しておき、必要なチームは使えるようにする。</p>
<p>5 相手チームとメインゲーム①を行う。（展開①7分）</p> <p>【ルール】</p> <div data-bbox="165 1657 550 2049" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>○バドミントンコート</li> <li>○3対3ゲーム</li> <li>○キャッチ→キャッチ→スパイクの3段攻撃 (ワンバウンドを選択してもよい)</li> <li>○サーブは相手が確実にとれる場所に下から投げ入れる</li> <li>○3タッチ（1人1回）</li> <li>○サーブ権は1回ずつ交代する</li> <li>○自分のチームにサーブ権がきたらローテーションする</li> <li>○ブロックなし</li> </ul> </div> <p>S：キャッチは苦手だからワンバウンドでキャッチしよう。 S：なるべくネットに近いところでボールをもらおう。 S：アタックは打ちやすいボールをあげよう。</p>	<p>○自分が「する」だけでなく、友達のプレーを見て気付いたことを伝えたり、ゲームが円滑に進むように関わったりすることが大事であることを伝える。</p> <p>○よいプレーだけでなく、得点係や応援を頑張っている児童を見つけ称賛する。</p>

<p>6 前半ゲームの振り返りと作戦タイム（展開② 5分）</p> <p>○メインゲーム①の振り返りをする。 作戦カードを見ながら、良かった点やうまくいかなかった点をチームで共有し、メインゲーム②へつなげる。</p> <p>S：メインゲーム①で、うまくいった攻撃をもう1回やってみよう。</p> <p>S：うまくいったから、隊形を変えてみよう。</p> <p>S：アタックは○○さんが打つと点が入りやすいかも。</p>	<p>○チームを巡回し、うまくできたことや課題について児童同士の対話を促すような問いかけや言葉がけをする。</p> <p>○失敗を責めるのではなく、チームの課題として協力して教え合えるように声をかける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目</p> <p>◆自己やチームの特徴に応じた作戦を選んでいる。</p> <p style="text-align: right;">&lt;観察（思①）&gt;</p> </div>
<p>7 相手チームとゲーム②を行う。 （展開③ 7分）</p> <p>○作戦タイムで共有できたことを活かしてゲームに取り組む。</p>	<p>◎個々が「する・みる・支える・知る」の視点でゲームに関われるように声かけをする。</p> <p>○「する」児童だけでなく、「みる・支える・知る」でゲームに関わっている児童を称賛する。</p>
<p>8 本時を振り返り、次時へのリフレクションをする。 （終末6分）</p> <p>○タブレットに本時の振り返りを行う。</p> <p>S：チームで話し合えたことがゲームに活かすことができた。</p> <p>S：試合に出していない時は、友達の応援を頑張ることができた。</p> <p>S：アタックがうまくできなかったから、次回は頑張りたい。</p>	<p>◎「する・みる・支える・知る」の視点から、自分の関わり方や友達への気付きをICTワークシートに記入するように促す。</p> <p>○児童が記入した内容を確認し、抽出したものを全体で共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◆評価項目</p> <p>◆仲間の考えや取組、関わり方を認めようとしている。</p> <p style="text-align: right;">&lt;観察（態②）&gt;</p> </div>

**3 板書計画** 注：写真やICT活用の際の画面も可とする

単元の学習課題 様々な関わりを通してソフトバレーボールを楽しもう。

めあて 一人一人が声をかけ合い、助け合い、ゲームを楽しもう。

今日の流れ

運動への関わり

1. 準備・体操
2. スキルアップタイム
3. 作戦タイム①
4. ゲーム①
5. 作戦タイム②
6. ゲーム②
7. 振り返り

ステージ

スクリーン

コート①

コート②

コート③

トイレ

★「する」活動は、プレーしながら、うまくいったことや課題を発見する。

★「みる」活動は、仲間のプレーを観戦し、気付いたことを伝える。

★「支える」活動は、得点や審判、応援をする。

★「知る」活動は、ルールや作戦、プレーから気付いたことを伝える。